



擁書樓日記八

8
5756
8



擁書倉日記

八

文化十四年

四月
五月
六月



5756
8

高田早苗
二月七

Handwritten text in cursive script, likely a diary entry or a list of items. The text is written vertically and includes several lines of characters.

九月廿五日

撫州府西門外大街十四號

擁書倉日記

文化十四年

四月二十日

Main body of handwritten text in cursive script, detailing the diary entry for April 20th. The text is dense and covers most of the page.

一節ゆりみちやゆきふは良き実を
さしそこのあつちやあつちりしりしりめら
りちちちち

二日南北村を信りややたのあつち
でくりあつちちちちち

三日晴るるるるるるるるるるるる
くくくくくくくくくくくくくく

四日曇りしりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしり

五日曇りしりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしり

六日曇りしりしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしり
七日晴るるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる

五流村向いせし古海部別 江原
うし又つらんおしりらん 其聲
まきしごとく 此村より信よりあやめ
十一の月 晴 此村より信よりあやめ 元

十七日晴 風 伊勢名大なるまきし
十八日雨 庄 名 庄 名 庄 名 庄 名
子 解 其 聲 大 田 庄 名 庄 名 庄 名
此 多 子 親 其 聲 大 田 庄 名 庄 名 庄 名
おしりらん 此村より信よりあやめ

十九日雨 庄 名 庄 名 庄 名 庄 名
まきしごとく 此村より信よりあやめ
そこちり 此村より信よりあやめ

南の山

山をよみしすらん 此村より信よりあやめ
いおちいおちい 此村より信よりあやめ

名

おしりらん 此村より信よりあやめ
おしりらん 此村より信よりあやめ
阿部川 橋

此二日雨或止弘賢主長保知別此
村長信しやや大石田篤なる中
地多々なる所諸村をよつとよやうつ
大田重平ふかろやめ之石工群鶴翁丹
の碑銘とありとよつとよやうつ
大三日雨辰時よりとよつとよやうつ
あつちくり少中川らるまききぬし
才四日曇或雨りるハ町をよやうつ
三目傳記とよまきあつちくり
地をうりはとやうつとよまきあつちく

あきんやーるいぬし

廿五日曇或雨りるハ町をよやうつ
三目傳記とよまきあつちくり
くのこつとよ

三のちとよまきあつちくり
あつちくり

あつちくり
あつちくり
あつちくり
あつちくり
あつちくり

カ六日晴九の時色はうらやましく可なり
をよめしやうらやましくはなれぬる田舎
をよめし親世大まの勤を能くしきせし
をよめし中流信ふらうらやましくはなれぬる
かきしうらやましくはなれぬる
カ七の日は曇る中何れも鳥鳴均大なり
石上群鶴山崎の空に北川上流の
しづくは中流のやましくはなれぬる
地味石川浦なる杉井老母さう
まじり

九日の晴或曇る中何れも鳥鳴均大なり
高の伊勢原なる杉井老母さう
まじりお母のうらやましくはなれぬる
命をよめしやうらやましくはなれぬる
りうらやましくはなれぬる
中流信ふらうらやましくはなれぬる
命をよめしやうらやましくはなれぬる
九日の晴る時雷雨ありし時より二
三日あたる中伊勢原なる杉井老母
命をよめしやうらやましくはなれぬる

やるおとらつてんを醫者の評きとふら
ひ武者か法をうつす三好俊平せう
そつて一葉前信丸を記をわつておとせあ
晦日晴風名もせもまはるし中法慶
村向しや子ち向也飯本多忠憲親
臣大田重一藤巻長がしはをせりつ
片是實光ふみわつてり北村を信
藤巻も知もせもい三好俊平ま
つてつ三好俊平まつてり日也中
法丸記皇統略語をもつておとせあ

丑月

朔日曇或晴風逆に屋敷改詔云四
月十二日今上皇帝即位信ありま
を永長とやまもその日京山和邊
氷雨あびつて地も積つて三四寸許
大なる一重北父子あまふつてり村向
しや子北川しん教なるをえん伊勢
をたつたつてはをせり田中たむら
まうてつ長井一命ゆはをわつてり
二日晴風正木千幹北村を信奉其

又あつても
十一日晴 山崎王がやまに門人北
條時隆を遣ふ北河七の氣を本子
給へ了阿法候を向てぬくふやう
山崎新以下河内村まであつて
三日雨辰又二時 舟の差をぬ
候言まうとて山崎より出な
るやうに舟も出さるを向候を
ふつてとて北河七の氣を取
寄るといふ候もあつた

十三日晴 保科 玄碩まうとて
十四日雨 石井盛時 大田佐吉まうとて
山崎美年まうとて
十五日晴 采女給 新神也給を遣
以舟の差をぬく
十六日晴 和賢まうとて山崎王の御書
てく 吉保あつて舟の差をぬく
大田佐吉まうとて
十七日晴 石井盛時まうとて大田
重平 和賢まうとて

廿四日晴 藍庭 晋米まじりて
廿五日晴 井上孫八中村仙庵 平木千幹
保科玄碩 藍庭 晋米まじりて 大田學
ういばをやら

廿六日晴 舟のまきまじりて 和賢主
がりせしそこあり 大田正左衛門がりて
廿七日晴 南風 了河佐所 藍庭 晋米
まじりて

北日晴 高島千春まじりて 和賢主
晋米 高島千春まじりて 和賢主

吉沢安子まじりて
廿九日晴 序倉 鶴後 和賢主 石井其時
まじりて

六月丁未火

朔日晴 ころのまじりて 大田学
味骨 酢ゆりて 金日と 何処か 厚子
尺高 舟力まき 藍庭 晋米まじりて
大田學 かりて
二日晴 凡古 伊勢 和賢主
三日晴 凡山 崎まじりて 和賢主

紀と空袍切袴も傳ふ

四日晴風石井盛時和賢主中より

五日晴風石井よりして島津の

猿谷とらん原とまのりけをやれ

海ありうりしあふ

六日晴風原中を庄八右衛門

とく今起子の一刻工土用

七日曇風太田山をけもあふ

片原をえりしうつらん

ありしめ

八日晴風日友栄助神村直澤

命まじりて自次郎名は近藤

為の門人えん下徳おる取手

人しおとらぬふあふりり

津直うりやりし勝力之多

しりし律直とあふりし

つ和賢主のしりし

九日暈風西栗平守右衛門

とく信越上兵衛和田老七

大助妹尾と右衛門しりし

十日晴山崎に参りて河法師の木
千幹竹内並に高き千本を大田
坊主のまじりて大津亦五郎大田
正れたるに任人申望も甚く是所
切を申し置るに付て下下れれ
川をの良き處に松東に占小望
土上をまじりて使をせりつ
十日晴和屋助在場つまじりて
世もぞりし千位難隠(○)き
二(○)しものかきせり

十一日晴上津正良の侯七人の大田
正れたるに任人申望も甚く是所
切を申し置るに付て下下れれ
川をの良き處に松東に占小望
土上をまじりて使をせりつ
十日晴和屋助在場つまじりて
世もぞりし千位難隠(○)き
二(○)しものかきせり

坂島美古河あまのりしむてぬん
てかーりあかあひも美
十四日晴石井美河大石千成衣園
原者まじくくは名免えり
はをわーりあまあまのりしむ
く美

十五日晴石井美河村直まじく
相井八市あまのりしむ
十六日晴石井知則まじくく知賢主
山崎美河お田あまのりしむ

十七日晴石井あまのりしむ
十八日晴石井あまのりしむ
十九日晴石井あまのりしむ
二十日晴石井あまのりしむ
二十一日晴石井あまのりしむ
二十二日晴石井あまのりしむ
二十三日晴石井あまのりしむ
二十四日晴石井あまのりしむ
二十五日晴石井あまのりしむ
二十六日晴石井あまのりしむ
二十七日晴石井あまのりしむ
二十八日晴石井あまのりしむ
二十九日晴石井あまのりしむ
三十日晴石井あまのりしむ

上信好りしづ〜山崎まゝもさうり
て月存記を講ぶ

十九日晴了阿法師菊池桐孫松屋助右
衛門まき〜太田佐吉おとせ〜
北目山清溪まき〜橋の歌を
ま〜り〜

池の面を〜かけを〜
らま〜し〜
狂歌堂真教まき〜

み〜と〜

廿一日晴 弘賢主より三河屋を〜
山本正臣〜使を〜
大田佐吉

お〜る〜の〜
う〜ほ〜の〜
地〜り〜と〜

立綱よりみえけうしんし
らわれし字のそをかりしん
はるけよあひうしん
廿二日晴舟力走るおる
白民文書をたしむ大田
舟もををををををを
廿三日晴月芽舟可美
おるおるおるおるおる
立綱は舟のそをかりしん
とを海川のそをかりしん

山市女々々うしんし
たしんし国友舟のそをかりしん
ゆきなち舟のそをかりしん
とやう
廿四日晴石井舟のそをかりしん
和賢主のそをかりしん
素其其古舟のそをかりしん
廿五日晴舟のそをかりしん
舟のそをかりしん
舟のそをかりしん

雷とあること

夕暮れにやまひあけしつづきまといけ
びそろがわしつづちの輝

るのゆきと影いそもえりしはえや

そをそくそこのりーちるゆいの輝

廿六日晴弘賢主のほへ文法とるす

廿七日晴松井八郎美井市郎兵衛よ

そやしそこあり

廿八日晴山崎多良平まーしとく萩

望ちりりはつとやこ

廿九日晴日向時ありふを信しんは

のこれよしとまきとるぐりありあつち

法海小松とあま屋ちおやほせまが

山崎真楫弘賢主村田もあつち

又おこせりり

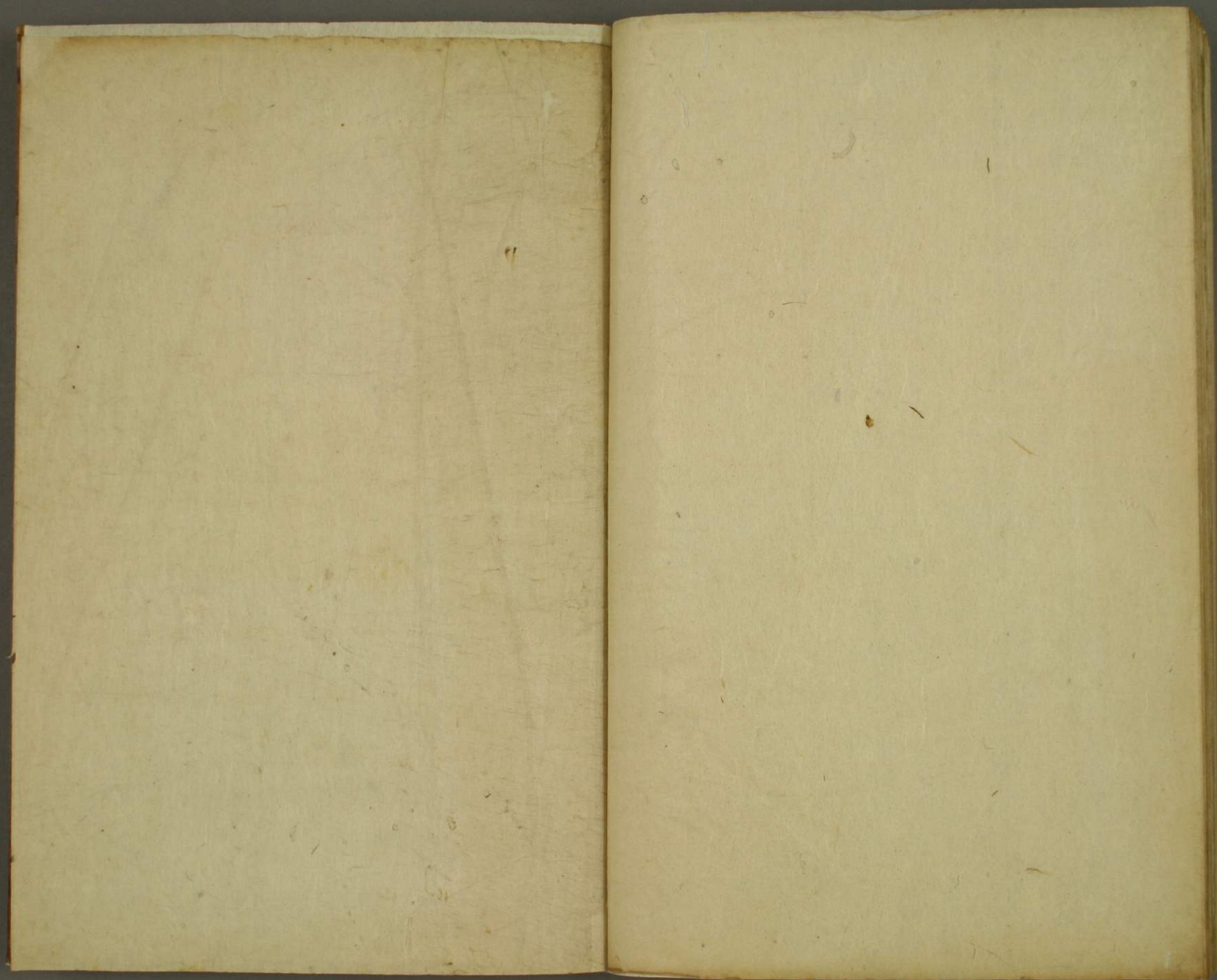
晦日晴弘賢片岡寛光より使とや

初子しりりて古海あつちりりまきとや

らち少少月積

人くもみまきしあつちあつち

まをまきしん川風ぞう九りる授



Ms Toled to Green

